

初島住彦*：九州産植物分布新報

S. HATSUSHIMA : Distributional News to the Flora of Kyûsyû

1. コノハラクサフジ (*Vicia amurensis* var. *silvatica* HARA)

本種は朝鮮，満洲，ウスリ方面に多く我が国では山梨，長野，埼玉等の本州中部に稀産する多年生蔓草であるが，これが九州本土の最南端で発見されたことは分布上極めて興味深い。今生育地の環境を詳しく述べると，薩摩半島の南端山川市の後にソテツの野生で有名な竹山と称する海岸から屹立する海拔 80 m 位の岩山がありこの麓に点々とあり，更にここから海岸づたいに約 1 キロ西行すると長崎鼻と称する岩山がありこの岩山の草地にも点々と見られる。また竹山と長崎鼻間の海岸の断崖にも所々見られる。即ち生育地はいずれも海岸の岩山が断崖である。葉の大きさは花枝葉で長さ 2 cm 許で明らかにコノハラクサフジ型である。朝鮮，満洲及び富士の河口湖畔産のものと比較したが全く同一型である。この北方型の草が九州本土の最南端でソテツその他の亜熱帯植物と一緒に生えているということは生態学的にも極めて興味があり，これは恐らく岩山という特殊環境に関係があると思う。同所にはヤマノイモ科のナガイモも自生しているのでこれも前者同様寒冷時代に南下していた北方型の遺存種と見做すべきものであろう。なお面白いことはこのコノハラクサフジを自宅で露地栽培しているが冬になつても葉は枯れることなく青々としており，茎は年々肥大し既に植えてから 5 年余りになるが枯れることなく茎の径は鉛筆大となつている。また毎年根元から地中に数個の匍枝を出し，これが地上に出て何本もの茎となつて年々大きな株となつている。

2. クサノオウバノヤクシソウ (*Youngia chelidoniifolia* KITAMURA)

朝鮮系の植物である本種は我が国では従来中国，四国の深山に知られていたが，私はこれを 1952 年肥後の市房山の前面の谷海拔 1400 m 位の所にある湿つた岩上で採つた。なお同谷の上方には従来日向だけに知られていたツクシイワシヤジンも産する。

3. サクラバハノキ (*Alnus traveculosa* HANDEL-MAZZ.)

従来我が国では愛知県と中国地方に知られていたが筆者は 1958 年宮崎県の川南町の池畔で一株を見付けた。同所のものは切株から萌芽数本を出していたが恐らく附近の池畔にはあるかも知れない。なお同池畔には宮崎大学の平田氏が最初に見付けられたヘビノボラズも自生しているが，これも九州には新記録である。

4. ナミツユクサ (*Commelina undulata* R. Br.)

一見ツユクサに似ているが葉は幅やや狭く，色は多少白味を帯びた緑色で，花は小さく色が淡青色であるので直ちに区別出来る。またシマツユクサとは苞の先端が長く尖らないので直ぐに区別出来る。ナミツユクサは従来奄美大島以南に知られていたが筆者は 1949 年に佐多岬の灯台の所で採り，1956 年には更に北方の大隅の辺塚部落で採つた。佐多岬の灯

* 鹿児島大学農学部 Facult. Agric. Kagoshima Univ.

台附近では比較的多く産し普通のツユクサと混生している。

5. リュウキュウエビネ (*Calanthe liukiuensis* SCHLTR.)

これはトクサラン系統のエビネで4月頃小さい濃黄色の花をつける。従来は沖縄島及び奄美大島に知られていたが、種子島の安納にある国立農事試験場種子島支場の熱心なる採集家大内山茂樹氏はこれを種子島の立山で1955年5月開花中のものを採集された。

6. トクサラン (*Calanthe venusta* SCHLTR.)

従来屋久島、種子島以北には知られていなかったが薩摩の下甕島の尾岳に産することが判った。

7. ヒメヤツシロラン (*Didymoplexis brevipes* OHW1)

これは従来沖縄島以南の琉球列島に知られていた高さ10~20cmの無葉蘭であるが、上記の大内山氏は1957年6月11日に開花中のものを種子島の住吉で採られ、また1957年7月10日には屋久島の北にある竹島で元同島の小中学校の教員をしておられた尾崎米吉氏も開花中のものを採られた。尾崎氏によると竹島では竹林内に生じていた由で同竹林内からタカマソウ、ホンゴウソウ、ウエマツソウも採つて見えた。

8. タマザキヤマビワソウ (*Isanthera discolor* var. *austrokiushiensis* OHW1)

従来は屋久島、種子島以南に知られていたが、私は1957年6月大隅半島の佐多町泊部落の奥の谷で結実中のものを採集した。同所のものは出来もよく高さは80cmに達し個体数も7~8株はあつた。

9. ピロウドボタンズル (*Clematis Leschenaultiana* DC.)

従来我が国では北は琉球列島の奄美大島からトカラ列島の悪石島に及び更に飛んで薩摩の下甕島までは知られていたが、1957年上記のタマザキヤマビワソウの産する谷で採集することが出来た。同所にはかなり個体数も多く、大なるものは茎の径1cmに達するものもあつた。

10. オガサワラコミカンソウ (*Phyllanthus debilis* KLEIN)

これは一見キダチコミカンソウに似た一年生?草本で最初中井博士が小笠原島産に基いて *Phyllanthus boninensis* NAKAI と記載されたものであるが、その後南洋群島の Saipan, Palou でも発見された。然るに私はこれを1956年奄美大島の名瀬市内で採つた、よく調べてみると上記の学名のもので原産地は南印度、セイロン附近らしいが現今ではマレーシア、太平洋諸島、西印度方面にも分布している。恐らく近い内に日本内地にも侵入して来るかも知れない。

11. アマノホシクサ (*Eriocaulon Amanoanum* Koyama)

本種は一見クロホシクサを思わせるホシクサの一種で、最初天野鉄夫氏が採つていたものを私が沖縄で見えて一寸変つたホシクサに思われたので小山鉄夫氏に鑑定してもらつた所新種ということになった。その後私も徳之島で採つた。処が最近これを上記の宮崎県の川南の池畔で採りまた今年鹿児島県伊佐郡西太良村で採つた。恐らく南九州には各地に点するものと思う。

12. チャボイ (*Eleocharis parvula* LINK)

本種は1936年筆者が日本で初めて福岡県今津の海岸で採集したものでその後中島一男氏が対島で採られた以外他に発見されていない。然るに今年の秋筆者はこれを鹿児島湾に面する帖佐の海岸湿地並びに薩摩の江内村荒崎の海岸で採集した。本種は一見マツバイに似ているが葉及び花茎が肥大しているので一寸注意するとすぐ判る。恐らく九州の西部、南部の鴨等の渡来して来る海岸湿地には広く分布しているものと想像する。

13. カラスギバサンキライ (*Heterosmilax japonica* KUNTH)

本種は従来北は屋久島、黒島まで知られていたが、筆者は1954年鹿児島県姶良郡の新川溪谷で本を採つた。採つた場所は海岸から2里以上も内陸で特に暖いという所でもなかつた。

14. チャボシライトソウ (*Chionographis Koidzumiana* OHWI)

本種は従来尾張、紀州、土佐、屋久島等から知られ、最近では東大の原博士が日向の尾鈴山に産することを報じているが、我々は一昨年宮崎県の大崩山でこれを採集することが出来た。

15. オオバチヂミザサ (*Oplismenus compositus* var. *patens* OHWI)

従来の本種の北限は屋久島であつたが今回鹿児島県薩摩郡入来峠の谷で採集することが出来た。

16. リュウキュウホラゴケ (*Vandenboschia liukiensis* TAGAWA)

本種は琉球列島の特産で従来北限は屋久島であるが、筆者は今年これを上記カラスバサンキライの産する新川溪谷の杉林内の巨岩の蔭で採集することが出来た。また附近には従来球磨川沿岸の特産と称せられていたクマガワブドウも産する。なお京都大学の岩槻氏は本種を一昨年大隅の辺塚方面で採られた由である。

17. ツクシムレスズメ (*Sophora Franchetiana* DUNN)

本種は肥後の球磨川沿岸に稀産する豆科の灌木で、小泉博士は南支那産の上記の学名のものに当てられている。然るに1956年宮崎大学の重松教授より宮崎県の高岡町で栽培していたものだといつて、送つて来たものを見るとこれがツクシムレスズメであつた。何でも附近から採つて来たものだとのことであるから恐らく附近に自生地があるのであろう。また当教室には明治45年大隅の嘉例川附近で採られた標本があり恐らくこれも野生品と思われる。以上より考え大隅、日向にも野生がありそうであるので同好者の注意を促したい。

18. ミヤマツチトリモチ (*Balanophora nipponica* MAK.)

本種の分布は従来本州中部及び北部となつているが、我々は今夏(8月20日)肥後の五箇庄で採集することが出来た。採つた場所は一カ所は樅木から上椎葉に越す峠道の左側の谷の海拔1400 m位の所のシオジ、イタヤカエデ、サワグルミ等からなる森林内と他は樅木から登つた上福根山の九合目附近(海拔1500 m)位の林内で両地域共に点々とあり極めて稀という程でもなかつた。本種はツチトリモチとは植物体の色が淡橙紅色であるのと出現時期が大分早いので直ぐに区別出来る。

19. ハンコクシダ (*Struthiopteris Hancockii* TAGAWA)

従来本種は台湾以北には記録がなかつたが、筆者は1952年トカラ列島の口之島(屋久島

のすぐ南の島)の前岳の9合目附近(海拔 580 m)で採り、教室の迫君等は更に南の中之島の頂上附近(約 900 m)で採った。本種は一寸シガシラに似ているが羽片は長さの割に幅が広く、下方の羽片はシガシラのものより著しく短いので区別出来る。以上の点で区別は出来るが非常に近いもので恐らくシガシラの地理的変種と見做すのがよいかも知れない。

20. ホコシダ (*Pteris ensiformis* BURM.)

本種は1952年トカラ列島の宝島で採ったことがありこれが北限かと考えていたが、一昨年教室の迫君は薩摩の坊津町近くの久志で採集した。同所では人家の石垣の間にイノモトソウ等と混生していた由である。種子島の大内山茂樹及び佐々木舜一共著の種子島植物目録中にホコシダの記録があるが実物を見ていないので確かなことは判らない。
